



道内各地域の取り組み

洞爺湖有珠山ジオパーク

Toya-Utsu UNESCO Global Geopark

- 4 教育・文化**
 - 2000年に有珠山の噴火を経験した地域では、噴火で被災した建物や道路、新しくできた火山周辺を無料散策路として開放し、誰もが火山の噴火について学ぶ機会を作っています。
 - 複数の散策路で利用できる、野外学習テキストを無料で公開・配布しています。特に小学校6年生の学習を児童・教員両者のサポートをしています。
- 11 自然環境**
 - 活火山である有珠山は、数十年おきに噴火活動を活性化するため、次の噴火への備えが欠かせません。火山を知り、正しい知識を持つ地域住民を「洞爺湖有珠山マウンテン」に認定し、地域住民や来訪者への減災教育活動を行っています。

など他の目標

アポイ岳ジオパーク

Mt. Apoi UNESCO Global Geopark

- 15 自然環境**
 - 近年の気候変動等により花の数が激減している「花の名山」アポイ岳の豊かな生態系を保全するために、地域全体で取り組みを進めています。
 - アポイ岳再生事業～気候や植生の変化、エゾシカによる被害等の基礎調査を行いつつ、ハイマツの伐採試験等を行っています。
 - アポイ岳ファンクラブの活動「アポイドリームプロジェクト」として、学校と連携して高山植物の移植実験や登山道整備を行っています。
- 14 水産資源**
 - 水産資源の増殖事業に取り組みるとともに、町内団体が海岸清掃や魚付き林を目的とした植樹を行っています。また、ピーチーミングの実施や、海に開するトランクウェイを制作し、海の現状を学ぶ機会を設けています。
 - ピーチーミング～海岸の漂着物から海の現状を学ぶ事業を行っています。
 - 海に関する事業～講演会や観の見学、漁業体験などを行っています。
- 11 自然環境**
 - 北海道で生まれたアイヌ文化が、地域の生活に色濃く残るアポイ岳ジオパーク。自然と共生してきたアイヌの人たちの文化を尊重しながら、自然と私たちの関わりを考える活動を行っています。
 - アイヌ資料等の展示事業～アイヌ文化の精神等を紹介するために展示事業を随時開催しています。
 - 文化振興事業～古式舞踊等の保存・伝承を推進しています。
- 13 自然環境**
 - 地域内の森林整備を進めるとともに、気候変動による災害時に対応できるよう、洪水ハザードマップ整備や講演会や訓練などを通じて「減災」意識の普及を図っています。
 - 防災関連事業～ハザードマップ作成や、防災グッズの普及啓発を行っています。

白滝ジオパーク

Shirataki Geopark

- 2 自然環境**
 - 北海道内で2番目の町面積を誇る遠軽町では、畑作を中心とした農業が盛んです。町内の農業従事者1人当たりの経営耕地面積は8.67haで、食料生産に寄与しています。とくに、100万年前の火山噴出物とオホーツク海まで注ぐ湧別川が作り出した湖内一帯の火山性堆積物で覆われた「白濁じが」は、でんぷん質が多く、ホクホクと甘みのあるブランドじゃがいもとして知られています。
- 13 自然環境**
 - 遠軽町では、地球温暖化対策推進法に基づく地方公共団体実行計画を策定し、さらに自衛隊駐屯地や消防、警察等の関係機関と連携した防災会議、訓練を毎年行っています。本地域では近年、台風や集中豪雨による大雨災害が頻発していますが、過去の歴史から見て大雨災害に悩まされてきた地域という認識が残されています。このような記録を次世代に伝えていくための活動をジオパーク学習の一環として行っています。
- 15 自然環境**
 - 町面積の84.85%が森林地帯に相当する遠軽町では、林業も盛んです。かつての大規模噴火による火山灰が溜まった溶結凝灰岩のガレ場が作り出す高穴地帯では、北海道を代表するアカエゾマツなどの樹種が低標高でも生育し、良質の木材として地域の経済基盤を支えてきました。現在は、ランドピアの心臓部である薪炭を制作する地元企業と、遠軽町、オホーツク総合振興局と協定を結び、循環型の森林づくりを進める森林を保全しながら、活力のある地域づくりに貢献し、オホーツクの「木の文化」を次の世代に引き継ぐことを目指した「ピアの森」を設置しています。
- 6 自然環境**
 - 北海道で最も標高の高い大雪山連峰 旭岳の北東側に位置する遠軽町には、標高1,600mを越える北大雪山の山々が広がっています。この北大雪山の水を水源とする湧別川は、雪解け水による水量が豊富で、河川BOD(生物学的酸素要求量)は0.6mg/Lと生物にとって非常に棲みやすい環境となっています。また、湧別川上流に設置された白濁水力発電所では、年間一般家庭60軒分の電力が供給され、さらに収容率2%が運営会社より町へと寄付されています。
- 1 教育・文化**
 - 遠軽町では、教育費割合が全歳出の21.52%を占め、人口1人当たりの教育費は96千円となっています。白濁ジオパークの拠点施設である白濁ジオパーク交流センター/埋蔵文化財センターでは、常設展示室の入館のほか各種体験学習も実施していますが、町内の学校が利用する際には入館料を無料とし、さらに学校から拠点施設までのバス移動も負担(文化庁補助金を利用)しています。

三笠ジオパーク

Mikasa Geopark

- 4 教育・文化**
 - 小中一貫教育を早くから進めており、地域を深く学ぶ「地域科」などを通して、将来に夢や希望を持つように、学校・家庭・地域が結びついて学びを深める取り組みを行っています。
 - 学校教育、社会教育とも、三笠市立博物館や三笠鉄道村の拠点施設のほか、炭鉱施設の遺構などを活用し、北海道の成り立ちや開拓の歴史など、実際に現地で見学、体験しながら学びを深める取り組みを行っています。
 - 三笠GPでは、三笠市教育研究所と連携して三笠ジオパークESD推進協議会を立ち上げ、学校と地域を連携する「地域学習カレンダー」を作成し、学校教育と社会教育を繋げる取り組みを行っています。
 - 三笠ジオパーク小中学生用ガイドブックを作成し、地域の歴史や風土などをより深く学ぶことができる資料として、小中学生に配布を行っています。
- 6 自然環境**
 - 三笠を流れる幾音川の上流には、北海道で初めて建設された重力式多目的ダムである桂沢ダムがあります。ここでは電力の確保や、流域の治水、農業用水の確保のために建設され、現在ダムの高上げ工事を行っており、インフラツーリズムや教育プログラムと連携することにより、人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保などの取り組みを進めています。
- 8 自然環境**
 - 地域の歴史や風土などを地域の重要な宝として、再発見・再利用する取り組みを進めており、ジオパークを地域振興のツールとして活用し、三笠ジオパーク認定商品制度や体験型を中心としたジオツアーの実施など、多様な取り組みを展開し、地域内でさまざまな効果を生み出す取り組みを進めています。
- 11 自然環境**
 - 三笠はアンモナイトなどの1億年前の生命の痕跡である化石と、5千万年の年月をかけてできた石炭、そして150年前に石炭の発見から始まる炭鉱の歴史など、特徴ある歴史と風土を有しています。それらを守る保全活動として、炭鉱遺産学術調査や炭鉱の記憶記録事業など、地質地形に関する遺産の保護保全に取り組んでいます。

とかち鹿追ジオパーク

Tokachi Shikaoi Geopark

- 15 自然環境**
 - 大雪山国立公園に指定される鹿追町の北部には、かつての火山活動によって作られた山々がそびえ、山に広がる森には獲りこぼしたウサギ(エゾキウサギ)を代表とするともユニークな生き物たちが暮らしています。また、山の斜面には夏でも冷たい風を吹き出す風穴があり、その周りには「日本の貴重な苔の森」にも選ばれる美しい苔が広がっています。この特殊な環境を次の世代に引き継ぐための活動を環境啓蒙、森林管理、自然ガイド、民間企業、団体、地元自治体が協力行なっています。
- 2 自然環境**
 - 日本の食糧基地として知られる十勝地方。その食料自給率はカロリーベースに換算すると113.2%(2018)になりました。その一端を担う鹿追町の自給率は3000%超え。火山灰土壌や昼夜の寒暖差といった特性を活かしてジャガイモ、でんぷん、小麦、マメ類を代表とする作物の栽培と、広大な大地を使った乳牛、肉牛、豚、鶏の飼育が行われています。そしてその生産量は、機械と技術の進歩と農家の規模拡大により今もなお増え続けています。
- 4 教育・文化**
 - 鹿追町では、2019年7月より中学校の給食費無償化が実施され、全ての子どもに地元産の農産物をふんだんに使用した給食が提供されています。また町内唯一の高校では全ての生徒がカナダの姉妹都市に2週間、自己負担2万円で開催留学し、国際交流を図っています。他にも地域の様々なプロジェクトを教育現場と結びつけ、校内だけに取まらない教育を実施しています。
- 7 自然環境**
 - 3万頭を超す牛・肉牛が飼育される鹿追町では、以前からその真原の処理及び臭い問題となっていました。そこでその問題を解決するために作られたのがバイオガスプラントです。現在、町内には国内最大規模のバイオガスプラントが2基稼働し、周辺の農家から集められた糞尿を使って発電が行われています。これにより化石燃料に頼らない地域循環型エネルギーのシステムが構築されています。

十勝岳ジオパーク構想

Tokachidake Geopark(Biei-Kamifurano Area) Plan

- 4 教育・文化**
 - 地域を理解し、愛着を持って、小・中・高校での郷土学習や、国立十勝青少年交流の家などの社会教育施設等との連携を図り、地域全体での教育活動を進めています。
 - 小学校「ふるさと学習」(総合学習)を通じた地域理解
 - 中学校:総合学習の時間などを活用した地域の調べ学習
 - 高校:1年生宿泊研修でSDGsの考え方を紹介。3年間のジオパーク学習プログラム
- 6 自然環境**
 - 山岳部の水質汚染・環境破壊への影響を軽減するため、環境省などと連携した保全活動を行っています。
 - 山のトイレ(携帯トイレ)の取り組み
 - 登山道などの整備
- 8 自然環境**
 - 地域の地形・地質・郷土史・農業などの特色を理解・活用し、観光に活かしていく取り組みが進められています。
 - ガイド養成の観光・ジオ・歴史・民謡などの分野の共有
 - 上富良野高校生によるARを活用した史実・観光・地質等の解説
 - 農業と観光の共存・共有
- 10 自然環境**
 - アイヌの案内により十勝越えをした松浦武四郎の足跡をたどりながら、アイヌ語の神話や地名、当時の生活などを学び取りを行っています。
 - トナリツチ伝承型雪ふろこバス
 - 松浦武四郎の足跡とアイヌ地名を巡るモニターツアー
- 11 自然環境**
 - 1926年に十勝岳の噴火によって発生した融雪型泥流は、地域の144名もの犠牲者を出し、特に防災について地域の関心が高く、砂防施設・監視施設・避難所などのハード整備のほか、地域住民への防災教育が幅広く行われています。
 - 総合火山防災訓練
 - 小学校の火山防災教育(国土交通省・北海道)
 - 十勝学習・ふるさと学習(小学校)
 - 上富良野高校ジオパーク学習
- 15 自然環境**
 - 連続的な火山活動によって形作られてきた十勝岳連峰は、繰り返されてきた噴火と崩落により複雑な地形を有し、貴重な生態系も残されています。十勝岳ジオパーク構想はこれらの地形や生態系、液状丘陵の景観の保全活動に取り組んでいます。
 - 国立公園内の自然保護の順守
 - ボランティア登山(登山道整備など)の実施
 - 景観条例による保全活動・過剰な開発等の抑制
 - セイウオオマルハナバチなど外来種の駆除

大雪山カムイミンタラジオパーク構想

Mt. Daisetsu-Kamuyintangar Geopark Project

- 6 自然環境**
 - 当地域では、大雪山に降る雪が石狩川をはじめとする多数の河川や山麓での豊富な伏流水の源となっています。私たちは、その水を生活や農業、各種産業に広く用いています。当地域では、ジオパーク構想推進協議会の構成員である東川町や大雪山自然学校での水と暮らしの関わりを学ぶ教育プログラムや、大雪と石狩の自然を守る会が雪山の道の上回復運動など、水資源や水に関わる生態系との持続可能な関わり方を考えていくための取り組みを行っています。
- 10 自然環境**
 - 当地域では、博物館での展示や地域のイベントを通して、アイヌ文化の保存・振興に取り組んでいます。また、平成30年度には日本遺産「カムイと共に生きる上川アイヌ」が認定されています。一方でアイヌ伝承と結びついた奇岩等のフィールドに分布する地域遺産は、保全状況や存在の認知度などの点で十分ではありません。こうした課題に対して、ジオパーク活動を通じて地域住民を巻き込みながら取り組んでいきたいと考えています。